

いま蘇る 黒土の小水力発電所

黒土新聞

kurotsuchi shousui ryoku hatsudensho

第1号

質問にはワシが答えるぞ。



千種の森に住む精霊。推定年齢 500才。もの静かな性格で知識豊富。「ほっほっほ」と笑う。

Q 小水力発電とは？

A 水が流れるエネルギーを使った発電方法なんじゃ。自然エネルギーの中でも、太陽光や風力発電に比べて出力変動が小さく、安定して電力を発電できるぞ。

Q なぜ黒土地区に？

A 黒土川には大正期に稼働していた水力発電施設跡があるんじゃ。その先人たちの知恵と想いを引き継ぎ、この地域の環境資源を次世代のため活かしていくことを目的としているんじゃない。



Q 発電所はいつ頃完成しますか？

A 1月に工事が着工し、9月頃から本格的に稼働を始める予定じゃ。

Q 発電した電力はどうなりますか？

A 作ったエネルギーは電力会社を通じて、みんなに使われるんじゃ。また売電の収益を活用した地域活性化事業や森林保護なども計画中じゃ。

Q 誰がしているの？

A 黒土地区の住民有志と小水力発電コンサルタントとして実績のあるE-SELECTの協力で、黒土川小水力発電合同会社を設立。役員10名で活動してんわ。

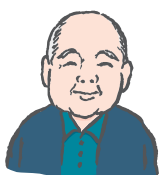


黒土川小水力発電合同会社のメンバーを紹介します！

元公務員や元エンジニア、元会社経営者など個性豊かな面々です



春名玄貴



阿曾知世巳



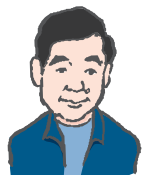
阿曾好修



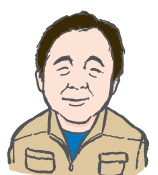
瀧本武紀



白矢昇



阿曾茂夫



土平研一



岡山秀行



平田安子



宮本さわの



合同会社のロゴマーク

黒土にある3つの資源。「豊かな土壌」「豊かな清流」「豊かな森林」をモチーフに。



地域活性化



自治意識の向上

小水力発電

災害防止

森林保全

黒土地区は、先人が子孫・地域のために禿山の植林を行ってきた地域であり、現在も林業は地域経済・環境の共存に大きな役割を担っています。しかし、近年は森林資源の枯渇や林業従事者の減少が懸念されています。小水力発電事業は、次世代のために黒土地区の環境資源を生かし、地域経済へと循環させていく仕組みとなり、地域の自治意識を高めていく存在にもなります。



ホームページでも詳しい内容を発信しています！最新の情報をゲットしてください。

次号の予告

「地域のエネルギーを作ること」

次回の発行は4月を予定しています